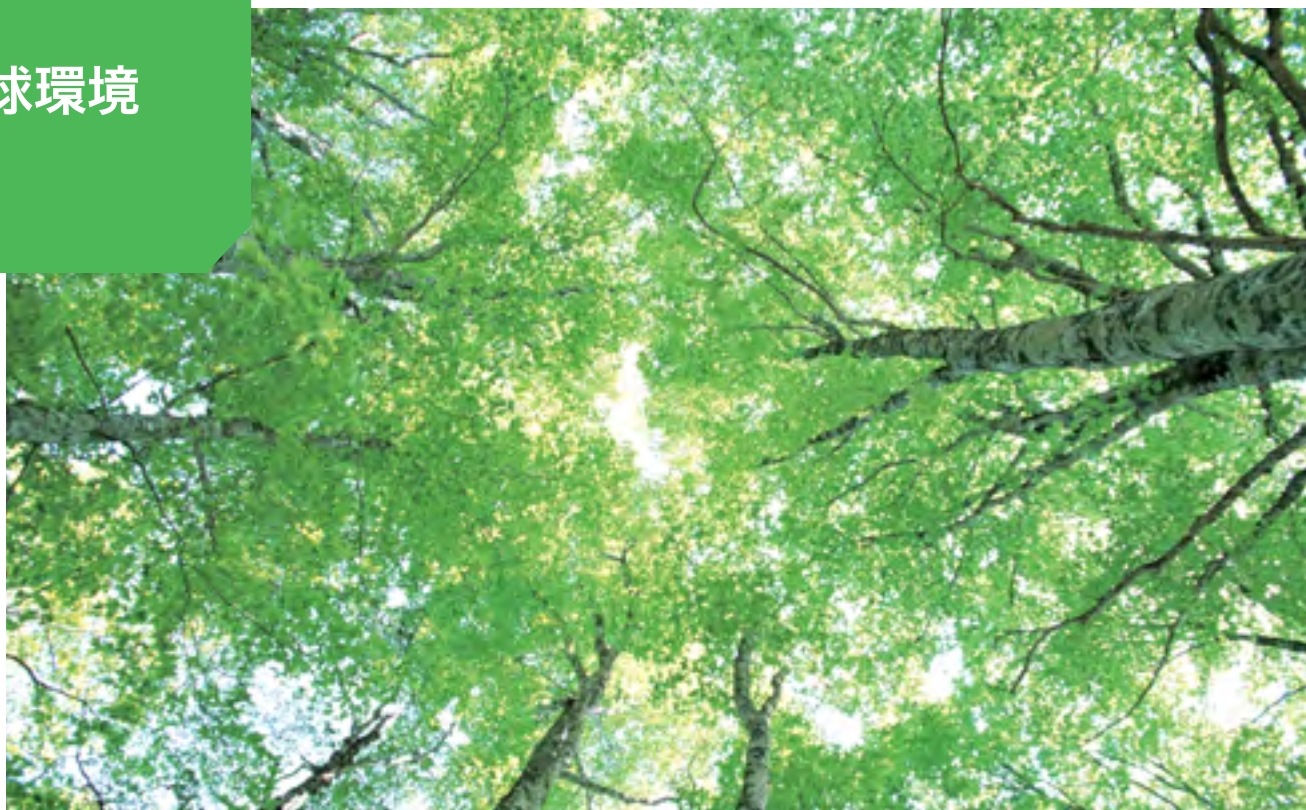


地球環境



- スナップショット
- トップインタビュー
- 特集
- 事業の概況
- CSR情報
- 企業情報
- 財務セクション

地球環境との調和に努め持続可能な社会の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、2010年に策定した「環境計画2020」に基づき、地球環境や社会との調和に努め社会的責任を果たす企業を目指します。

環境活動の計画

ヤマハ発動機グループ 環境計画2020

	取り組み分野	重点取り組み項目	2020年目標
エコ プロダクツ	環境・お客さま 基点の製品開発 による 『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン “Frontier2020”として展開する	
		「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の 把握と代替の推進
エコ オペレー ション	環境負荷最小化を 目指したグローバルな事業活動 による『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO ₂ 原単位で年平均1%削減
		「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と循環利用の促進
エコ マネジメント	グループ環境 ガバナンスの仕組み強化による 『環境管理』	「グループ全体の環境管理 システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の 連携が取れている
エコ マインド	持続可能な地球環境を目指し た多様なエコ活動による 『環境貢献』	「継続的な環境教育による 意識改革」	グループ全員が高い目標意識で環境取組を 積極的に行っている
		「感覚環境(臭気、騒音など)の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、 敬愛を受けている
		「環境を切り口とした 積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から 高い評価を受けている

環境経営を推進する体制

ヤマハ発動機グループでは、環境活動を職掌する担当本部長からの諮問を受ける「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環境に関わる活動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。

直接／間接排出ごとの温室効果ガス排出量の把握と排出量削減活動

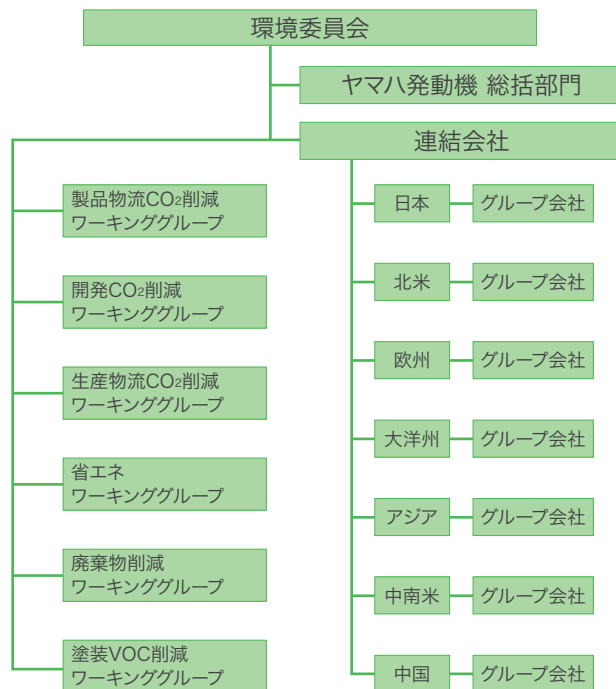
ヤマハ発動機グループでは、温室効果ガスの排出において、企業活動による直接的な排出（工場で使用する燃料の燃焼等からの直接的な排出）と、間接的な排出（工場・オフィスでの電力使用量等からの換算による間接的な排出）の把握に努めています。2012年度における直接、間接の排出量は、2011年度比で生産量の増加により微増となっています。エリア別の排出量を把握したうえで、各工場・各事業所ごとに一層の排出量削減に向け省エネ設備導入等を進めています。

インドネシアの製造会社YMMWJではコージェネレーション設備ガスエンジン発電機から発生する排気ガスの廃熱を利用して蒸気を作り、LPGボイラーの使用燃料を2012年度は年間約60%削減することができました。3台ある発電機の運転においては効率の良い3by1方式（3台の発電機に1台の廃熱ボイラー）を採用しており、電力の安定供給とCO₂削減に貢献しています。



YMMWJのガスエンジン発電機
 【仕様】ガスエンジン発電機2,735kW 3台設置
 【蒸気使用先】樹脂塗装・鉄塗装・ダイキャスト
 【LPG燃料削減によるCO₂削減量】△400t-CO₂/年
 *YMMWJ: PT. Yamaha Motor manufacturing West Java

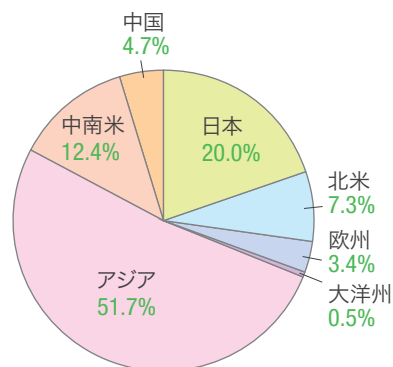
ヤマハ発動機グループの環境企画・推進組織



(2013年4月1日現在)

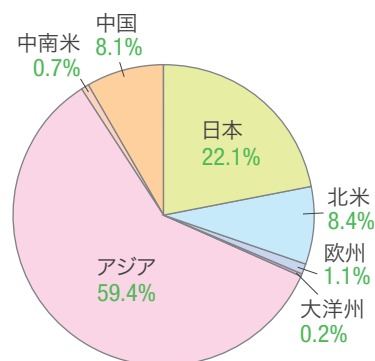
直接排出

※エリア別CO₂排出比率



間接排出

※エリア別CO₂排出比率

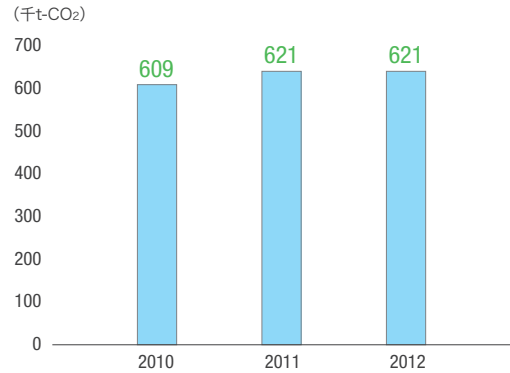


ヤマハ発動機グループのCO₂排出量の推移

ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーであり、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として、製品の開発から製造、使用、廃棄にいたるライフサイクル全体で、温室効果ガスの削減を進めています。

グループ共通の目標としては、「CO₂原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発から製造、使用、廃棄にいたるライフサイクル全体での取り組みを中心に、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。CO₂排出量では、2012年は621千t-CO₂となりました。今後も、国内・海外のグループ会社によるエネルギー使用量削減に向けた活動状況のモニタリングと、グループ会社に対する支援を行うなど、効率的な温室効果ガス削減に取り組んでいきます。

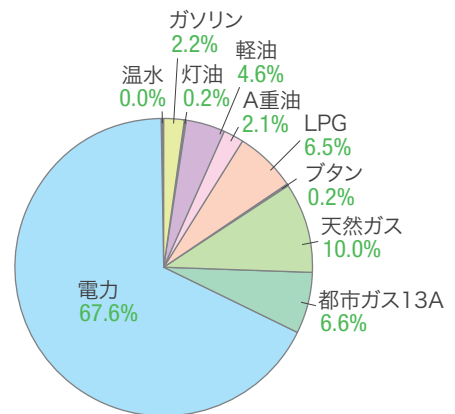
ヤマハ発動機グループ CO₂排出量



ヤマハ発動機グループのエネルギー投入量

ヤマハ発動機グループでは、より効率的でかつ有効な省エネルギー対策を実施するために、エネルギー投入量とその種類の把握に努めています。

2012年度のエネルギー投入量は全体で1,165万GJとなり、約68%が電力で788万GJが投入されています。電力使用量削減のため、電力見える化設備導入による現状分析を行い、効率的な削減活動の実施、工場への省電力設備の導入、事務所におけるLED照明の導入などを計画的に取り組んでいます。



照明を蛍光灯からLEDに交換することなどで、電力使用量削減に取り組んでいます。

トピックス

クラス最軽量※を達成した、コンパクトな4ストローク船外機「F200F」

ヤマハ発動機株式会社では、軽量・コンパクト設計の徹底により、クラス最軽量*を達成した200馬力の4ストローク船外機「F200F」を開発し、2013年3月1日より発売しました。

「F200F」は、新開発の総排気量2,785cm³、直列4気筒のパワーユニットを採用。徹底した軽量・コンパクト設計により、V型6気筒のレイアウトを持つ既存の当社製200馬力船外機（F200C）に比べ、乾燥質量で約60kg、横幅で約85mmの大幅な軽量・コンパクト化を実現しました。これにより、従来に比べて多様なタイプのボートへの搭載を可能としています。

環境対応の面では、世界で最も厳しいと言われている米国カリフォルニア州大気資源局（CARB）規制値における最高基準値（スリースター）をクリアしています。

※当社調べによる、出力200馬力の4ストローク船外機との比較。2013年2月現在



環境ISO認証 世界41社での統合を開始

海外拠点を含むグループ会社で導入しているISO14001環境マネジメントシステムを2012年4月から統一認証化する取り組みをスタートしました。

当社グループには当システムを導入している会社が日本・欧米・アセアン・中国・台湾・インド・南米の各地域で41社あり、それぞれが別々の認証機関から審査を受けている状態にあります。これを1つの認証機関でグローバルに統合することで、一元管理によるガバナンスの向上、環境活動のレベルアップ、効率化によるコストの大幅低減などを見込んでいます。



統一認証登録書

スナップショット

トップインタビュー

特集

事業の概況

CSR情報

企業情報

財務セクション